

CCIE になるには? TOMO さん 『CCIE R&SW 受験編 (3 回分)』

<http://blog.garenet.com/tomo/>

CCIE R&SW ラボ受験記 (1 回目)

10月11日(2005年)、その日は少し天気が悪い3連休明けの火曜日。遅刻はできないので6時に起床して、すぐさま支度をして新宿へ向かう。3日ぶりに外界に出ました。娑婆の空気が胸に突き刺さる。

今日が勝負の1日。

Ciscoの新宿三井ビルへ。案外迷いました。新宿はいつ行っても出口が多く方向に迷うし、三井だとか住友だとか同じようなビルが並ぶ。デフォルトは田舎者なのです。

三井ビルの8Fに行くと、8時半近くだったけどまだ誰も来ていなかったけど、2分くらいの間にどっと集まりました。受験者は私をよせて5人。

小さい部屋に案内されプロクタから簡単な説明があり、ラボにて試験機材の説明などの後、さっそく試験開始へと。問題を見た感じでは、構成はあまり複雑ではない感じでした。Internetworkexpert 以上 DoIT 未満という構成ですかね。

問題はファイルで渡され、それを見てPCに向かいます。感覚的にはオンラインラボをやるのイメージは同じでした。

初めての受験ということもあり開始してしばらくはショボイミスを連発して時間をロスしてしまいました。

というのも、今までかなりの時間自前のラボでWorkbookを中心にひたすら演習していたため、その時に使っていたIPの1.1.X.Xというのが手に記憶されていて、自分のラックは1ではないですが、いつの間にかIPを1.1.X.Xとか打ってFrame-relay mapとか作っていたりした。

脳で考える前に手がコマンドを打っているという感じです、怖いものです。

あとConfigを間違ったら間違っただ、ターミナルソフトもTeratermではないのでコピペとかの操作がいちいち不便。

あとUnivercdが不調で、全く調べられません。リンクをクリックしてもページの頭しか読み込まれなかったりして、たとえばOverviewとかの部分しか表示されないんですよ。最後のExampleだけ表示されるならまだしもこれでは話になりません。再読込をしてもNetscapeを起動し直しても同じ。Searchも一切使えない始末。

プロクタに言ってみると、PCをリブートしたら直るかもしれないという話でした。たくさんWindow

をひらいて作業している時だったので調べ物は後回しにして Config を急ぎます。

トラブルはもう一点ありました。ルートマップがうまく設定できず、どうしても set コマンドが Config に反映されません。

どう考えても Config は正しいのに、設定を入れても反映されない。当然、それを使ったソリューションは提供できないわけで。

きっと焦って何か勘違いしているだけだと思い、頭を切り換えて次に進みます。けっきょく、その後もそのルーターは状況が同じだったので、駄目もとでリブートしてみると何もなかったように復旧。はじめからリブートすればよかった・・・

こんな風に自作自演的にトラぶりつつも、なんとか午前中で IGP は終わり、Telsh を使い Ping ですべての到達性を確認。ネットワークはつながったので、ちょっと気が楽になりました。後半は例の難関の QoS や Security との勝負があるので、しばし休息。

昼食はまずいと評判の弁当ですが、まあ、確かにという感じ。「世界回遊膳」というような名前でした。どこらへんに世界を表現しているのか不明ですが、基本的に肉中心です。想像するに普段食べればそこそこのんでしょうけど、戦の途中で、しかもそれは 15 万円も払っている試験だという状況下で食べるからシビアに評価されるのかもしれませんが、もちろん完食。

こうしてブログを書いていると、やはり見てくれている人はいるもので、受験者の中にもいらっしやいました。ブログネタで少し会話がはずみ、ちょっと良かったです。でないと、一言も会話ないままだったと思いますので。

30 分のランチタイムのあと、試験再開。QoS とかになるとさすがに CC0 必要なので、思い切って PC をリブートしてもらうことに。リブート後もしばらく不調でしたが、やっと復活してくれました。

よみがえった Univercd でドキュメントを調べて行きます。だいたい場所は理解しているので探すことに迷うことはなかったですね。ただ、やっぱり調べるのはかなり時間のロスで、特に CD-ROM の倍速が遅いのか、いまいちレスポンスが悪いので、基本は CC0 検索は最小限の利用にとどめた方が確実にいいですね。

私の中で苦手四天王である QoS/Security/IPservice/IOSFeature の抵抗勢力の壁は厚く、やってもやっても終わらない感じ。2 問くらいわからないものがあり、ちょっと焦る。とりあえず後回しにして、先へ進みます。

その後、最後の門番、Multicast に BGP を沈め、3 時半くらいでした。

そこでバックして、飛ばした問題を熟考して解いたりしているとすでに 5 時前になっており、試験時間はあと二十分弱。

思ったより考えることが多く時間に余裕がなくなりましたが、すべての問題で完答できたので気が楽になりました。

ここでけっこう合格は堅いなと確信し、最後に再度 Config をセーブして全機器をリブート。問題をパラパラと見直しますが、特にできなかったのはなさそう。

ブートアップ後、残り 10 分というところで、ルーティングを確認しますが、すべて完全に動いています。もはや打つまでもないと思いつつも再度 Ping を打つことに。楽々に Telsh で Ping をしてあとは終わりを待つだけ・・・とっていると事件発生！！

Ping が通らないポイント多数！！ マジポ??

かなり背筋が寒くなりました。リブートで何かデータが消えて状態が何か変わったのか?? 冷静になれと自分に言い聞かせますが、どうしても焦ってしまいます。

どう慎重に見てもルーティングテーブル的にはすべて問題ないのに、Ping を打つと U.U.U. みたいな。一体何が起きているんだ?

混乱が混乱を呼びます。迫り来るタイムリミット。

IGP の到達性がなければ合格はないだろう・・・。

残り 3 分くらいの時点でやっとこの問題を FIX できました。

勝利です、時間的にはギリギリでしたが、すべての到達性は確認でき、気持ちよく試験を終えることができました。

もちろん合格を確信して帰ってみると、7 時くらいにすでに Cisco からメールが。クリックするときにはさすがにドキドキします。そして開いて一番に目に入った「Pass」という文字！！

「やっぱりなあ」と思ったやさき、それは筆記の結果でした。まぎらわしー。

その下には、悪夢の「Fail」表示が。

唖然としました。脱力感を抱えたまま、Score レポートを見ると思ったよりできていない部分がありました。惨敗ですね。1 問 2 問の差ではないです。正直に告白しますと、何かの採点ミスではないかと真っ先に思っていたくらい、まさに青天の霹靂。

落ちることはこの「Fail」の文字を見るまで想像してなかったですが、そこらへんが決定的にアマチュアの受験家なのだろうなという気がしました。落ちた後のアクションがまるで思い浮かばなかったですね。まさに空白でした・・・

ただ、正直後悔はなくて、ここ何ヶ月やったことはすべて出し切れたと思っています。「あれ、前に確かやったけどどうだったっけ？思い出せない・・・」みたいな話はなかったし、さっぱりわからなかった問題もなかったです。もちろん運がなかったとも思いませんし、実力が不十分なのが要因だと素直に考えています。

ならばそれを是正するのみなので、泥臭くリベンジに向かうだけです。いつになるかはまだわかりませんが・・・俺は負けない！！←パクリ

(blog 更新 : 2005-10-13 00:12:22)

CCIE R&SW ラボ受験記（2回目）

すみません、完全に Cisco という現実から逃避していました。

そう、Lab に再び落ちたのです。

さすがに2度目となるとかなり落ち込みまして、お先真っ暗という気分を味わいました。FAIL の文字を見ると頭がクラクラしますね。

試験としては、特にレイヤー2 やルーティングでできない問題もなく、伏兵の OoS や Security も十分に勉強して望んだためそれなりにできたつもりでしたし、今回は見直す時間もプロクタに確認する時間もけっこうあり、これで落ちるのか？というまさかの結果。今風に言えば青天の霹靂という感じ。

試験が惨敗だったのなら対策も考えられますが、けっこう手ごたえがあっただけに難しい命題を突きつけられた感じですよ。

2度も落ちると3度目も同じように落ちそうな気がします。どれだけニアピンに寄せられても、カップにけられる感じ・・・この焦燥感というか、マイナス思考というか、結果を見るのがブルブルするのがよくわかりますよ。ほんと技術以上に精神的なタフさが求められる試験という感じ。

また次回は来年になってしまい、新試験になるわけで未知数な要素も加算され、不安要素累乗。

ただ私は地道に基礎からやり直そうと思っています。たぶん、細部でミスをしていたり、とどのつまりは Cisco が望む回答ができてないわけです。

採点も意地悪なくらい辛く、わずかなミスや勘違いが命取りなので、もう少し細部を洞察できるようにならないといけませんね。

こういったブログだと前向きに、面白おかしく書いているところはありますが、けっこう暗い気持ちを過ごしていました。

けれども、けっきょくは途中で投げ出すという選択肢はないので、きつとりベンジします。そして合格をつかめるよう、「逆境 (R)」を乗り越えます。

というわけで、このブログもまだ続きます。

(blog 更新 : 2005-12-02 21:13:40)

CCIE R&SW ラボ受験記（3回目）

4月某日 CCIE の試験に臨むことに。過去2度落ちていますが、どちらも必死に勉強して挑み、手応えも十分であるにも関わらずの敗北だったので、未来航路が描けない感じでした。

さらに今年から新試験が始まりルータも新しいのが追加されたり IOS も Upgrade されたりと、不確定要素も多い。

きっとどんなにがんばってもあと2回は落ちそうだという悪い予感が頭をもたげ、試験日は4月までずるずるのびていました。

今回は自腹+年休で、全くの個人として試験を受けているため、その部分では気軽でした。

今回はいろいろな諸事情があって合格は厳しいことはわかっていました。まあ15万円の弁当を食べに行くと思って・・・とまでの割り切った境地ではないまでも、”いまできるベストを尽くそう”と目標を立てていました。

仕事もそして人生も常に調子がよい時ばかりではなくて、悪いときは悪いときなりにベストを尽くすのが大切だと思うからです。

小細工も捨てました。たとえばカラーのペンを持って入室するとか、telsh を使って ping を打つとか、Groupstudy を読みまわるとか。なんか一生懸命試験テクニックを追いかけてむなしく落ちるのが馬鹿らしくなってしまう、今回はオーソドックスに行きます。

まず大きな変更点は、プロクタが外国人になっています。アジア系の人（中国？）、以前はオーストラリアでプロクタをやっていたらしい。英語もスローでわかりやすく、去年の仏頂面より好感度にして10倍くらいの差がある感じ。

きっと英語はもっとペラペラしゃべれるのに、わざとわかりやすくゆっくり話してくれている感じで良い人です。日本語も理解しようという姿勢があって、典型的なネイティブアメリカンとかとは違うので、取っつきやすいと思います。

試験の難易度は、去年の後半私が受けたのと同じでした。詳細は言えませんが、今のところ 12.3 の New Feature 系はあまり気にしなくてもよいかも。

今だから言うと、去年の終盤は実は IS-IS や DLSW+ など今年 Remove が決まっているプロトコルは、すでに事実上 Remove されていました。ATM や ISDN こそは残っていましたが、すでに消化試合モードという感じで、それで何か陥れてやろうというような野心的な問題は出ていませんでした。おそらくプロクタとかのことも考えて、新試験へとソフトランディングするために、徐々に試験を移行していったの

ではないでしょうか。

試験開始です。今回はゆっくりと問題を読んで、正確に設定してゆきます。過去2回のように先を急ぐようにガツガツと食いつくように設定するわけでもなく、淡々と進行して行きます。

ただ精神的に余裕を持って問題を眺めると、コンフィグに仕掛けられているトラップだとか問題の意図が見透けて来ました。

ゆっくりと着実に設定して行きます。Redistribute でけっこうひねってあったのですが、それも写輪眼で見切りつつ進んで行きます。感触として、IGP は ATM や ISDN が Remove されたぶん、多少難易度が上がった感じがします。DoiT までとは行きませんが、ひねりがあります。

今回の試験は、昼までに IGP が一つの目安でしたが、勢い余って BGP まで終わりました。ゆっくりやっているはずなのに、いつもよりハイペース。しかも感触としてはここまでは100%正解です。

弁当は相変わらず微妙な仕出し弁当。洋風でした。うまくはないけれど食べられないレベルでもなく、そこらへんが微妙なのですね。プレッシャーもないためか食欲も旺盛で完食。

相変わらず沈黙が辛い休憩時間。

午後です。残り QoS、Security、Multicast などのどちらかといえばガレ兵ではなく伏兵の登場です(すみません>ガレ兵さん)。まだ4時間以上あるので時間的には余裕です。ペースを乱さずゆっくり解いていきます。怪しいのは CC0 で調べて確実に設定します。

そうそう、試験用のパソコンが新しくなったようで、CC0 の動作が飛躍的に上がっていました。ただ、Search は使用できないので、あらかじめ場所をおさえておく必要があります。ついでに言うとターミナルソフトもデスクトップに各ルータへのショートカットアイコンが用意されていて、すごくアクセスがしやすくなっていました。

その後も、サクサクと設定して行ったのですが、最後の方で1問だけ謎の問題があつて、どう考えてもソリューションはこれしかないというものには辿り着いていますが、それを実施すると以前の問題の制約事項に抵触することになって、うまくありません。こちらをたてればあちらがたたずという感じ。こういう場合はたいてい自分のソリューションに問題があるか、何かドンピシャリな抜け道コマンドがあるはずです。

しかしいくら調べても、プロクタに聞いても決定的なヒントは得られないので、この問題は途中まで設定をして、最後のわからない1ピースには踏み込まない状態で放置しました。あわよくば部分点を狙いつつといった感じです。少なくとも他の問題を道連れにすることは避けました。

ただ、このような現実には一生役に立たないようなトリック問題は必ずあつて、どんなに勉強をしても避けられない失点はあるので、ここでは焦らないことが重要です。

一通り終わって、この時点で15時でした。あと2時間ちょい。

油断は大敵です。過去2回も結果がわかるまでは余裕で合格と思っていた節があるので、今回は肝に銘じていました。はじめから見直して、show や時には debug を使いつつ動作を可能な限り確認して行きます。そうするとやはりミスを犯している箇所があります。修正して行きます。

もう間違いはあり得ないという手応えを感じたのは終了30分くらい前。計算しても97%はポイントが取れている確信がありました。

ただ今回はここに至っても大きな野心はありません。合格はもちろんしたいけれど、とりあえずベストが尽くせたことに満足していました。

そしてタイムアップ。

結果は Pass

来る日も来る日も何時間もガツガツ必死に目が疲れて開かなくなるまで勉強していた頃に落ちて、今回のように多少不安を抱えての試験で合格するのだから人生は不思議ですが、ある程度の実力以上に精神的なタフさが要求される試験なので、こういうこともあるのでしょう。

去年は1回目落ちて、慌てて2回目を受けました。あのときには、こういった精神的なスイッチの切り替えが出来てなかったのだと思います。うまく言えませんが、たとえ実力値は合格レベルであったとしても、いったん負の流れに陥ると、どんなに努力しても落ちることはあるのです。

無責任と言われるのを承知で言いますと、落ちこんで沈んだときに次の道が見えないときは、いったん勉強から離れる勇気も必要なのだと思います。それは甘いと言われそうですが、人は時間がたてばまたがんばれるのです。良い流れはきっと来るのです。

これから受験する人にアドバイスがあるとすれば、一番重要なことは問題をしっかりと読むこと。意図を把握すること。制約事項を守ること。プリセットされている Config の間違いを見抜く、あるいは問題を解いたときに発動される罫を見破ること。これらは基本中の基本ではありますが、この試験では Critical ポイントなのです。

あと常に最適なソリューションを求められているわけではなくて、実社会ではあり得ないような構成だったとしても、試験的にはそれが正解です。とにかく自分ならこうするだろうという思いこみは持たないこと。例えそれが技術的には優れたソリューションだったとしても、それを説明するチャンスはないし、何らかの制約に引っかかるようにできているので、得点できる可能性はありません。

実社会におけるベストソリューションではなくて、試験的に題意を満たすソリューションを考えてください。

最後に自己満足かもしれませんが、今回はまぐれっぽくない完全勝利を手にしたと思っています、この点は満足しています。

ただ一発合格しか考えていなかったところの3回目だし、CCIEを2つも3つも取られている人がいる中での単なるR&Sということもあるし、手放しでよろこんでいるわけではないですけど、何はともあれとりあえずはよかったです。

(blog 更新 : 2006-04-05 00:12:27)

CCIE R&SW を振り返って（書き下ろし）

今まで断片的にブログに書いていましたが、私が CCIE を受けた動機はあまり深くなく、3 年前にとった CCNP の Expire の日が迫ったため、その更新が当時 CCIE 筆記の合格でできたので、CCIE 筆記を目指したのです。

しかし、これにあえなく落ちました。

けっきょく時間がなくて CCNP の更新試験を受ける羽目になり、なんとか CCNP の更新はできました。

で、その後、CCIE 筆記のリベンジをします。

せっかく筆記を取ったのだからラボを受けようかと思ったのがきっかけといえればきっかけですね。

まあ、私のブログの全体のトーンから感じる人がいるかもしれませんが、私は CCIE に関して大きな思い入れもなく、難しい試験だという認識もあまりなかったです。

やや横柄に聞こえるかもしれませんが、自分が少し本気になれば楽に取得できるであろうと思っていました。

だから一発合格が当然。一発で合格できなければそれは敗北であると思っていました。

それには理由があって、私はその前の 3 年弱を海外中心に働いていて、いろいろな国に行ったり来たりしていました。

その中で Cisco 機器を触る機会もあって、現地の CCIE を持っているエンジニアといっしょに働くこともありました。

が、いずれもスキルの的にはイマイチで、どう冷静に見ても自分のほうが上という感じ。

こんなヘボエンジニアでも取れるような資格なら、私なら余裕だろうと思ったのです。

あと職場環境的なものもあって、私の周りに CCIE を受ける人もいなかったもので、それがどんな試験なのか全くわからなかったのです。

試験は内容も検討がつかないし、モチベーションがいつまで続くかもわからないので、とりあえずブログを立ち上げたのが『CCIE になるには？』の始まりでした。

当初はサクッと一発で合格して、「CCIE は簡単です！」みたいな感じであっさりと閉鎖するつもりでした。

それが落ちに落ち、そしてなんとなく今まで続いているのは因果なものです。

体験談を読んでいただくとわかるように、私は落ちた2回も十分手応えがあったし、合格したと思っていましたが、結果は惨敗でした。

どうしたら受かるのか袋小路に入った時期もありました。

現実、2回目の受験から3回目の受験までは4ヶ月近く空いていますが、このうち3ヶ月は全く勉強していませんでした。

ほとんどCCIEのことは忘れて過ごしていました。

しかし、ノドに引っかかった小骨のように心残りとして残っており、やっと精神的に回復したのでリベンジに向かいました。

結果はPass

涙が出たとか、そういう感情はなかったですが、最低限のノルマを果たせたという安堵感がありました。

うまく表現できませんが、1回目、2回目のときと技術的に大きな差が自分にあったとは思いませんが、3回目の手応えは、すべてを見切ったような頭の閃きがありました。

試験を受けながら、過去2回は見落としていたであろう細かいミスを次々に見つけて行けた気がします。

私の場合は2回目から3回目の間までのインターバルが逆に良かったと思っています。

ということで、勉強期間など長丁場の試験ですので、ときに休むことがあってもよいと思います。最後にはまた戻ってくればよいし、たとえ戻って来られなくても、また別の新しい道を見つけたのならよいと思います。

どうかお体には気をつけて、自分の思う通りに進んでください。

(2007/12/24)